第70回日本小児保健協会学術集会 主催

市民公開講座

『こどもの気になる行動 なんで？ どうする？』

日時 2023年6月18日(日) 15:30～16:30

座長 井上 哲志（いのうえ小児科）

会場 川崎市コンベンションホール C室

演者 柴田 光規（川崎西部地域療育センター）

参加費無料

当日会場にて受付いたします。

学術集会ホームページ https://www.k-con.co.jp/70jsch2023/

学術集会事務局

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター こころの診療部

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1
事務局長：田中 恭子

学術集会運営事務局

株式会社 ケイ・コンベンション

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-27-2 山本ビル 2 階
TEL：03-5367-2382　FAX：03-5367-2187
E-mail：jsch2023@k-con.co.jp

小児保健協会　講演　抄録

「こどもの気になる行動　なんで？ どうする？」

柴田　光規（川崎西部地域療育センター）

川崎市で生まれた芸術家の岡本太郎さんの晩年の作品に「こどもの樹」があります。生命力にあふれる樹の枝の先がこどもの顔になっています。太郎さんの養女で、理解者であった敏子さんはコメントを残しています。「それぞれがみんな、色の違う顔。怒ってるのもいるし、ベソかいてるのもいるし、ベロ出してんのもいる。『子どもというのはひとりひとりがみんな、こういう独自の、自分の顔を持ってなきゃいけないんだぞ』って、岡本太郎は伝えたいわけ。」

家族はこどもに「独自の、自分の顔を持って」自分らしく成長してほしいと願うものです。その子らしさを尊重し、理解したいと願いながらも、こどもの「困った行動」に振り回されて途方に暮れることもあるでしょう。なんでこんなことをするのだろう？どう対応したらよいのだろう？わが子はちゃんと育っていくのだろうか？と大きな不安を抱えているかもしれません。自分の関りの問題だから他の人に相談するのは恥ずかしい、と思うかもしれません。ネットをみると「発達障害」という言葉にぶつかり、そんなはずはない、いや、でも手遅れになったらどうしよう、と思ってしまうかもしれません。

先ほど「困った行動」と書きました。困っているのは誰でしょうか？家族が対応に困っていることは間違いありません。しかしながら、こどもも「どうしたらいいかわからなくて、困った末にとる行動」であることが多いのです。目の前の困った状況をその子なりになんとか乗り切ろうとするために不適切な行動をとって、周囲も困ってしまうことが多いのです。以前私がお会いしていた家族が少しホッとした表情で「自分はこどもの対応に困って目の前が真っ暗だった。しかしこの子も困っているんだとわかって、優しい気持ちになれた。そしてこの子が楽に過ごすためにはどうしたらいいのか考えられるようになった」と語っていたことを思い出します。

こどもの行動や特徴に向き合って対応することは家族の心身に大きな負担がかかります。私は日々の診療で「がんばれ」よりも「大変だよね」と互いに労い合いながら、こどものことを知りたい、こどもが過ごしやすい方法を家族と一緒に考えたい、と思っています。

今までお会いしたこどもや家族から多くの学びや励ましをもらってきました。今日は、こうして学んできたことをみなさんにお伝えします。みなさんが今までと少しだけ違う視点でこどものことをみることができて、こどもを理解するために役立ててもらえたら嬉しいです。

座長　**井上　哲志**（いのうえ　てつし）　いのうえ小児科

略　歴

1984 年　愛媛大学医学部卒業、同小児科医局に入局
1995 年　いのうえ小児科を開業（愛媛県東温市）
2007 年～ 2022 年　公益財団法人がんの子どもを守る会 愛媛支部代表幹事
2017 年　日本保育保健協議会理事（四国ブロック長）に就任
2022 年　愛媛県小児科医会会長に就任
　　日本小児保健協会理事に就任

演者　**柴田　光規**（しばた　みつのり）　社会福祉法人青い鳥　川崎西部地域療育センター

略　歴

茨城県出身
1997 年　山梨医科大学（現山梨大学卒業）
その後、亀田総合病院、東京医科歯科大学小児科、国立成育医療研究センターこころの診療部・総合診療部、カリフォルニア大学サンフランシスコ校総合小児科、東京北医療センター小児科を経て平成 23 年より現職。
子どもとその家族が安心して自分らしく過ごせる地域づくりを目指して、日々診療をしています。